

# 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

## 事業名 特別給費生運営費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,200 千円 (前年度予算額： 1,200 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,200	0	0	0	0	0	0	0	1,200
要求額	1,200	0	0	0	0	0	0	0	1,200
決定額	1,200	0	0	0	0	0	0	0	1,200

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

独創的な研究・創作活動の展開と優秀な学生を特別給費生として報奨することで、優秀な学生の入学促進を図る。

### (2) 事業内容

情報科学芸術大学院大学特別給費生報奨金

- ・支給人数 2人(1年生1人、2年生1人)
- ・年間支給額 600,000円/1人

### (3) 県負担・補助率の考え方

### (4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
交付金	1,200	奨学金 各学年1名 年間支給額600,000円／1人×2学年
合計	1,200	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

- (1) 後年度の財政負担  
後年度においても同程度の予算計上を予定。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
  - ・若者が力を発揮できる地域をつくる。
  - ・優秀な学生の研究・創作活動を支援する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H25)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標	達成率
①特別給費生採用人数	2	2	2	2	2	100%
②						

### ○指標を設定することができない場合の理由

教員の資質の向上と維持を目的とした研修の開催を目的としており、その達成度を数値的な指標で表すことが困難であるため。

### （これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>優れた研究・創作活動が認められた学生に対し、本学において研究・創作活動に精励すること、県または市町村が行うマルチメディア文化事業や情報発信活動に積極的に参加し、県民の情報リテラシーの向上に寄与すること等を条件に報奨金を交付した。</p> <p>特別給費生への交付者数／応募者数 1年生 1名／2名                      2年生 1名／2名 制度が浸透しており、優秀な学生を確保できている。 学生の研究意欲の向上させるインセンティブとして有効であり、ユニークな研究や活動が増加している。</p>
令和5年度	<p>優れた研究・創作活動が認められた学生に対し、本学において研究・創作活動に精励すること、県または市町村が行うマルチメディア文化事業や情報発信活動に積極的に参加し、県民の情報リテラシーの向上に寄与すること等を条件に報奨金を交付した。</p> <p>特別給費生への交付者数／応募者数 1年生 1名／4名                      2年生 1名／6名 制度が浸透しており、優秀な学生を確保できている。 学生の研究意欲の向上させるインセンティブとして有効であり、ユニークな研究や活動が増加している。</p>
令和6年度	<p>優れた研究・創作活動が認められた学生に対し、本学において研究・創作活動に精励すること、県または市町村が行うマルチメディア文化事業や情報発信活動に積極的に参加し、県民の情報リテラシーの向上に寄与すること等を条件に報奨金を交付した。</p> <p>特別給費生への交付者数／応募者数 1年生 1名／4名                      2年生 1名／7名 制度が浸透しており、優秀な学生を確保できている。 学生の研究意欲の向上させるインセンティブとして有効であり、ユニークな研究や活動が増加している。</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<b>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b> 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	国内外から優秀な学生を確保し、I AMASでの研究・創作活動の活性化に必要不可欠である。
<b>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b> 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	毎年優秀な学生を確保し、I AMASの研究・創作活動を活性化させるのに有効である。
<b>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b> 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	入学予定者を含む学生全員に周知して応募を募り、多数の応募者の中からトップレベルの学生を選考している。

### (今後の課題)

<b>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> より幅広く大学生(入学希望者)に特別給費生制度を紹介し、さらにレベルの高い学生の募集につなげる。
--

### (次年度の方向性)

<b>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b> 国内外からより高いレベルの学生の応募を募るため継続する。
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	【〇〇課】